

# 港湾振興便り



2020. 9

第160号

\*:

## 目 次

\*:

### 1 ポートエッセイ

— コロナ禍で拡大するEC（電子商取引）市場 —

～ 日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 中原 八一 ～

### 2 トピック

●横浜港南本牧ふ頭MC4コンテナターミナルが8月7日に暫定供用を開始しました！

(関東地方整備局 港湾空港部)

●海王丸パークフェスティバル開催！

(公益財団法人伏木富山港・海王丸財団)

●7月23日「海の日」海事功労者等表彰の動画を配信

(近畿地方整備局 港湾空港部)

●「みなとオアシスみたか」登録証交付式を開催

(中国地方整備局 港湾空港部)

●「海と日本PROJECT in とくしま」に協賛し、  
徳島県内の小学生を対象としたイベントを実施しました

(四国地方整備局 小松島港湾・空港整備事務所)

\*:

## 1 ポートエッセイ — コロナ禍で拡大するEC(電子商取引)市場 —

～日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 中原 八一～

\*:

新型コロナウイルスの感染拡大は我々の消費行動に大きな変化をもたらした。緊急事態宣言に伴う外出自粛要請や学校の一斉休校などによる在宅時間の増加をきっかけとして、いわゆる「巣ごもり消費」が広がったことで、ECサイトを利用した買物が増え、多くの分野で売り上げを大きく減らす中において、EC市場が伸びを見せている。

新潟市でも新型コロナウイルスの影響により売り上げ減少がある中小企業に対して、インターネットショッピングモールを活用した販路拡大と新規需要開拓を支援するための補助金を設定するなど、EC市場に期待を寄せている。

また、これまでトラックを中心とした物流網にも変化が見られ始めている。上越新幹線で実証実験が実施されていた「新幹線物流」について、JR東日本では今年9月から本格運用を開始した。これによりとれたての新鮮な鮮魚や農産品などを、首都圏などに早く届けることが可能になる。輸送品目も電子部品などにも拡大していく見込みだ。

三井住友カード株式会社が発表したレポートによると、日常的にECを利用している20～30代などの若者世代に加え、これまであまりEC利用が広がらなかった60代以上の高齢層においても今年3月頃から大きく増加するなど、我々の生活にECが着実に定着し始めている。反面、新型コロナ感染リスクの回避やEC利用の普及などにより、自宅に引きこもる高齢者などの健康被害が起こらないようしっかりと目配りし、必要な対応を講じながら感染拡大防止と社会経済活動を両立していかなければならない。

さて、我々の日常生活で広がり始めたECだが、我が国のEC利用の90%超が国内利用であり、国(地域)別で見るとトップクラスであるのに対し、国をまたぐEC、すなわち越境ECとなると、アメリカの約34%、中国の42%と比べ、極端に低く6%となっている。

越境ECの市場規模は2020年の約100兆円に対し、2027年は約534兆円に拡大すると予測されるなど、EC市場は、国内はもとより国際取引においても今後の商取引の主流になっていくと考えられていることから、行政としても、言語の壁などの参入障壁に対して適切に支援するなど、我が国が誇る「Made in Japan」の良質で安全な商品を積極的に発信できる環境を整え、国際物流においても我が国の存在感を発揮できるよう努めていかなければならない。

\*:

## 2 トピック

\*:

●横浜港南本牧ふ頭MC4コンテナターミナルが8月7日に暫定供用を開始しました！

(関東地方整備局 港湾空港部)

8月7日(金)、横浜港南本牧ふ頭MC4コンテナターミナルが暫定供用を開始しました！

横浜港の主力ふ頭の1つである南本牧ふ頭では、コンテナ船の大型化や船社間の連携による航路の再編など情勢が変化中、大型船の入港や増加する貨物に対応するため、我が国最大唯一となる水深18mの耐震強化岸壁を備えたコンテナターミナルの整備を進めてまいりました。

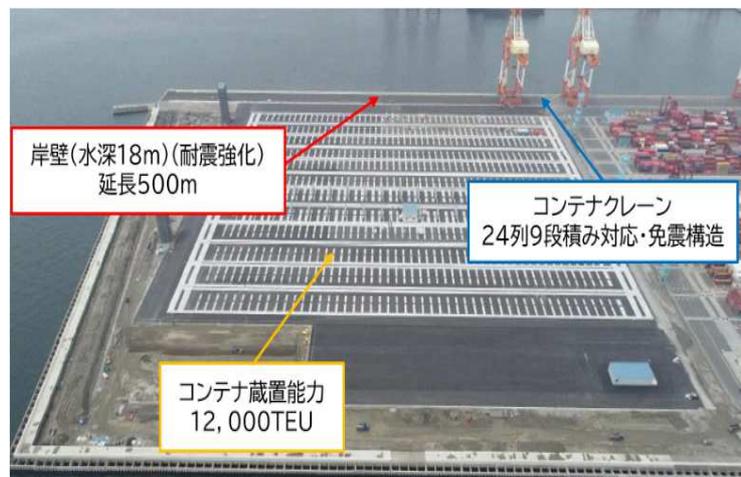
この度、MC4が運用を開始することで、MC3・4は水深18m、延長900m連続バースとして、世界最大級のコンテナ船に対応できる国内最大水深を有する高規格コンテナターミナルとなります。

さらに、MC1～4のすべてのターミナルの一体利用が可能となり、多方面の航路の船舶が船型やスケジュール等に応じて、施設全体を柔軟に利用できる画期的な運用が実現でき、高規格な施設能力を最大限に発揮できることとなります。

なお、管理棟等を含む全体施設の供用開始は、令和3年春頃を予定しています。



横浜港位置図



MC4コンテナターミナル

●海王丸パークフェスティバル開催！

(公益財団法人伏木富山港・海王丸財団)

8月8日(土)～10日(月・祝)、帆船海王丸一般公開30周年を記念したイベント「海王丸パークフェスティバル」が、伏木富山港新湊地区の海王丸パークで開催されました。8日(土)には、新湊観光船の無料体験乗船、海王丸船長との記念撮影、地元中学校による吹奏楽演奏、氷柱彫刻、エレクトーン演奏、9日(日)には、地元中学校と社会人バンドによる吹奏楽演奏、ピエロのパフォーマンス、10日(月・祝)には、地元中学校と高校による吹奏楽演奏、帆船海王丸一般公開30周年記念講演会、劇団による演劇が行われました。

10日には、公益財団法人伏木富山港・海王丸財団主催による帆船海王丸一般公開30周年記念式典が開催され、石井富山県知事、夏野射水市長、橘衆議院議員、柴田参議院議員、岸北陸地方整備局次長など、多くの来賓の出席のもと一般公開30周年を盛大に祝うとともに、一般公開当初から総帆展帆に参加しているボランティア6名と多年にわたり海王丸パークの清掃ボランティア活動を行っている2団体に感謝状が贈呈されました。



満船飾と縦帆(10枚)の展帆



帆船海王丸一般公開30周年記念式典 令和2年 8月10日

●7月23日「海の日」海事功労者等表彰の動画を配信

(近畿地方整備局 港湾空港部)

7月23日「海の日」に“「海の日」海事功労者等表彰 in KOBE”、“海の日チャンネル・KOBE”の2つの動画をYou Tube で配信しました。

これらの動画は、国土交通大臣表彰、海上保安庁長官表彰、神戸運輸監理部長表彰、近畿地方整備局長表彰、第五管区海上保安本部長表彰の海事功労等表彰受賞者を発表・紹介するほか多種多様な海の魅力を配信しています。

“海の日チャンネル・KOBE”の動画は、【海を知る】をテーマとした「官庁の仕事」「船・船員」「のんびり船旅気分」等と【海を楽しむ】をテーマとした「わくわく」「音楽」「ご当地アイドル」の各コンテンツで海運・造船・港湾などの海事産業や海の安全を守る仕事について、国民に広く知っていただくことを目的としており、子供から大人まで海・船・港を身近に感じてもらえる内容となっています。

毎年『海の日』に関するイベントとして、神戸運輸監理部、近畿地方整備局、第五管区海上保安本部の3官署共催で神戸市内のホテルにて海事功労等表彰受賞者表彰式を開催していましたが、今年は新型コロナウイルスの感染拡大予防の観点から「3密」を避けるため You Tube で配信し、普段は式典に出席できない方や遠方の方達にも祝福していただけるスタイルで実施しました。

※YouTube のチャンネルへは、以下のQRコードよりそれぞれアクセスできますので是非ご覧下さい。



【チャンネル名：「海の日」海事功労者等表彰 in KOBE】



【チャンネル名：海の日チャンネル・KOBE】

● 「みなとオアシスみたか」登録証交付式を開催

(中国地方整備局 港湾空港部)

令和2年8月7日(金)、広島県江田島市において、「みたかゲートハウス完成式典」と併せて「みなとオアシスみたか」の登録証交付式を開催しました。

今回の登録により、中国地方で28箇所(全国143箇所)となる「みなとオアシスみたか」の代表施設「みたかゲートハウス」は、年間19万人の利用者が訪れています。地域住民の憩いの場、観光客のお出迎えの場として「地域住民と観光客の交流を生む」をテーマに今回、旧ターミナルがリニューアルされ、情報提供・物販・休憩スペースも兼ね備え、ターミナルと交流プラザが併設した新たな交流観光拠点が誕生しました。

明岳 周作 江田島市長からは「みたかゲートハウス建設の目的は、江田島市の西の玄関口、交流拠点として、観光振興や市民の暮らしの核となるべく、みなとオアシスとしての機能の充実と強化を図ることです。三高港周辺地区の目指すべき将来像は、“元気創造！これからも自立可能な地域・みたか”です。実現するために、地域の皆様の御支援・御協力が必要不可欠です。よろしくお願いいたします。」とお言葉をいただきました。



登録証交付式



みたかゲートハウス

● 「海と日本PROJECT in とくしま」に協賛し、  
徳島県内の小学生を対象としたイベントを実施しました

(四国地方整備局 小松島港湾・空港整備事務所)

日本財団「海と日本PROJECT」の一環として、徳島の海とハモの魅力などを学習するイベント(とくしまのはも★ひろめ隊が行く)が、8月1日から2日間行われ、県内小学生18人が参加しました。

「海と日本PROJECT」は、海の現状を伝え海を未来へつないでいくためのアクションの輪を日本全国に広げていくために日本財団などがオールジャパンで推進するプロジェクトで、徳島県の幹事を四国放送が務めています。今回当事務所からは、港や船の役割、安全で美しい海を守る海洋環境整備事業についての座学のほか、海面清掃兼油回収船「みずき」による海面浮遊ごみ回収や海上に流出した油を拡散するために用いる放水銃のデモンストレーションを行い、航行する船舶の安全や徳島の特産品であるハモが生息する海を守る取り組みについて紹介しました。

参加した小学生の皆さんは「海をきれいにする大切さや『みずき』の船のしくみがよく分かった」「みずきはどんなに大きな物でもちゃんと入れてすごい」「(ごみ回収の)クレーンに迫力があってびっくりした」など、海を守る取

